

2014

9

目次
CONTENTS

- | | | | |
|----|-------------------------|----|-----------------------|
| 2 | イノシシに注意! | 13 | 那珂市内放射線量測定状況 |
| 4 | 「精神保健福祉士」「管理栄養士」を紹介します! | 16 | 那珂市特産品ブランド ロゴマーク決定 ほか |
| 6 | 水鳥⑩ | 17 | まちの話題 |
| 10 | 水戸ホーリーホックの応援に行こう | 20 | Information |
| 11 | 那珂市スポーツ少年団活動紹介 | 22 | 市長コラム ほか |
| 12 | 那珂市消費生活センターです | 24 | さわやかさん ほか |



プール遊びは楽しいな♪ (額田保育所)

水鳥

19

昭和四年陸軍特別大演習と 昭和天皇の五台村御巡幸

「巡幸永念の碑」はどこに消えた？」

はじめに

五台村（現那珂市）には、鎮守吉田神社や根本正の生家、それに隣接する郷土であった後藤家、清水寺、水戸藩の軍事訓練場であった清水原（注）など数多くの歴史的財産があります。この五台地区については、平成25年1月1日発行の広報なか「水鳥⑬」で「東木倉村絵図に見る村の景観」と題して紹介しましたが、今回はそれらに加えて、昭和4年（19



『常陸行幸紀事』
（国立国会図書館蔵）



清水原（水戸農高遠望）

29年）の昭和天皇の御巡幸があった事実およびその関連事項を紹介いたします。

資料は昭和17年（1942年）に茨城県師範学校から発行された『常陸行幸紀事』（国立国会図書館蔵）にありますが、さらに地元東木倉の根本喜代寿さん、中台の根本三代造さんからの聴き取りを加えています。

陸軍特別大演習

この昭和天皇の御巡幸は、昭和4年（1929年）11月15日から18日までの4日間の日程で行われた陸軍特別大演習の際になされたものです。特別大演習は毎年1回行われ、天皇が親しく統監するものです。

昭和天皇は、11月14日午後に大本営

（注）となった茨城県庁に到着されました。

（現在の三の丸庁舎ですが、この県庁舎完成は翌昭和5年ですから未完成のまま



馬上の昭和天皇



堀原練兵場（『茨城100年グラフ』（檜山智三氏提供）より）

まで大本営が置かれたことになりました）

17日に東（南）軍が白川義則司令官、西（北）軍が井上幾太郎司令官と両司令官の指揮の下で行われた大演習を視察された後に、常陸太田市の西山荘や太田尋常小学校を行幸されました。太田尋常小学校では大演習の講評が行われました。

18日は水戸堀原練兵場（現茨城県営野球場脇）で観兵式（注）が行われ、その後水戸高等学校に設けられた賜饌場（注）で天皇陛下から食事を賜われました。その後、五台村へ御巡幸されました。

19日からは地方行幸が行われ、19日は霞ヶ浦海軍航空隊、鹿島神宮、20日は水戸地方裁判所、水戸地方専売局、弘道館など、21日は常磐神社・好文亭などを訪問された後、同日午後皇居に還幸されました。

五台村御巡幸紀事

この記録は、御巡幸があった年から7年後の昭和11年（1936年）9月30日に、当時の五台小学校の黒澤哲二校長（戸崎出身）が、当時の記録や聴き取りによりまとめたもので、御巡幸当日の様子を知ることができる貴重な記録です。次ページでその文章を紹介いたします。



水戸高等学校

「永遠ノ記念」

昭和四年十一月水戸を中心として、常総の野に陸軍特別大演習を挙行せられ、畏くも 聖上陛下には、茨城県庁の大本営に行幸遊ばされ、親しく四万余の貔貅(注)を饗(注)せ給う。次で十一月十八日水戸高等学校(注)賜饗場より御還幸遊ばされた 陛下には、直に御愛馬吹雪に御召しになり、午後三時大本営を御出門万代橋を渡らせられ、青柳を経て、中台並木より左折し、所謂通学道路を一直線に、学校東側道路を御通りになられ、住宅裏へ御出で、午後三時四十分本校正門前を御通過遊ばされ、天神窪(注)に向わせられ、西木倉高台の畑道を進ませ給い、東木倉坂道(根本秀之介氏裏手の坂)を御下りになられ、観音堂(清水寺)側より再び学校に向わせ給い松林中頃より御引返しになり、林沿いの細道(現在の中台通)を進ませ給う。途中檜枝垂れ蔓り、陛下御親から避け給いしと云う枝、今も切らずにあり。(根本定吉氏裏の林)

以上は、当時の奉拝者の講話と、簡単な謹記とを綜合し、この光栄を永く後代に伝えんと欲し、茲に謹んで之を記す。(原文はカタカナ入り)

昭和十一年九月三十日
校長 黒澤哲二

◆昭和天皇行幸経路図



地図：国土地理院地図



大正期の清水寺
(『那珂郡郷土史』より)

【注】

1 清水原

五台村の広い範囲を占める字名。ここでは、かつて水戸藩が兎や鹿狩りなどを含む家臣たちの軍事訓練が行われていた。そのことから、水戸から近いこの由緒ある地が御

2 大本営

巡幸に選ばれたものと思われる。戦時中、事変中に設置された日本軍の天皇直属の最高統帥機関

3 観兵式

天皇陛下が兵を整列または行進させて検閲した式



江戸時代天保期の
清水寺境内
(根本喜代寿氏蔵)

4 賜饗場

天皇陛下から食事を賜る会場

5 貔貅

勇猛な軍隊・将卒

6 饗

見るの尊敬語、ご覧になる。

7 水戸高等学校

東原にあり現水戸第一中学校の裏手に当たり、元水戸国立病院があった。大戦後に茨城大学文学部となった。

8 天神窪

豊喰天満神社が字「久保」にあったことからそう呼ばれた。

【写真】

○馬上の昭和天皇

昭和9年代々木練兵場での観兵式(『日本歴史シリーズ』21「太平洋戦争」より)



大和田志一への感状
(『那珂町史』近代・現代編より)

これは、大和田志一氏がこの御巡幸に警衛補助として出動し、記念にメダル1個を贈呈されたことを示しています。

根本秀之介氏宅云々

これについては、根本喜代寿氏のご教示により現在のお宅（根本秀雄氏宅）を知り、また墓地には秀之介氏が建立した「父信之介夫妻」の墓碑があり、その碑文は東木倉出身の代議士根本正が撰文していることを知ることができました。碑の書は代々水戸藩の能筆家を務めた北条家の北条時雨です。

根本家は信之介が明治38年（1905年）7月から1年間、秀之介が昭和14年（1939年）から7年間と父子二代にわたって五台村の村長を務めています。（墓碑写真・碑文とも後掲）

根本定吉氏宅の檜木の枝

これについては、根本定吉氏のご子息根本三代造氏（昭和2年生まれ）がその日のことを記憶されていて大変貴重なお話をお伺いすることができました。

御巡幸のその日、母親に背負われて近所の人たちとお見送りしたと、各家の兩戸は警備上全部閉じるように命じられていたこと、道路には警備員が並び裏には檜木が数本立っていたことなどです。



元根本定吉氏邸付近

なお、この檜木は根本家では記念に残していましたが、「道路拡幅と家屋の改築の際に伐採してしまつた、よく知っていたら残しておけばよかった」とも話されました。

巡幸永念之碑

昭和四年十一月十八日

天皇陛下には高松宮殿下御同伴にて親しく本校附近を御巡幸遊ばされた本村の光栄を永く伝えんが為め、校門側に記念碑を建立し、毎年十一月十八日を 御巡幸記念日と定め、御聖徳を偲び奉る。

昭和五年 九月十五日工事着手

同 十月八日建碑竣工

同 十一月三日建碑式挙行

揮毫 元水戸中学校長

菊池謙二郎氏

碑文（正面）

巡幸永念之碑

菊池謙二郎謹書

碑陰文（裏面）

昭和四年十一月十八日觀兵式終了後天皇文武官三十餘人を従へて卒に此地に出御あり 闔村遍く鳳輦の轍を印せられ芻蕘^{そうぎょう}齊しく聖慮の忝きに感泣す乃ち永く之を後昆に傳へむと欲志村費を以て爰に此碑を建つ
昭和五年十一月

五臺村住民

（原文はカタカナ入り）

【注】
9 芻蕘^{そうぎょう}

くさかりときこりから微賤・庶民の意

五台尋常小学校と巡幸永念之碑

現在の水戸農業高等学校側に正門がありました。写真からは校門の門柱が見え、右手に奉安殿が見えます。

五台小学校
（昭和10年代：塩野忠氏提供）

奉安殿は、天皇・皇后両陛下のご真影と教育勅語を安置するために昭和12年（1937年）ころから全国の小・中学校に造られたもので、火災や盗難を防止し、また保存・尊厳の維持のために当時としては珍しい鉄筋コンクリートまたは土蔵で造られました。その上大きく頑丈な鉄製の

奉安殿
（『五台小学校百年誌』より）

扉が付けれられ、さらに周囲を鉄の鎖をわたした門で囲んでありました。多くは一目でわかる校門近くに建てられ、児童・生徒は登下校の際には必ず最敬礼をしたものです。

根本三代造氏の記憶では、五台小学校でも正門を入ると奉安殿、二宮金次郎像と並んで大きな「巡幸永念之碑」（御巡幸の碑、三代造氏の記憶ではおよそ縦3メートル、横1・5メートル）が立っていて、毎朝奉安殿と記念碑や二宮金次郎の像を拝して校舎に入ったといえます。たしかに、写真をよく見ると、籠を背負った女生徒5人の後方にある白い正門柱の右手に黒く記念碑が見えます。おそらく、これが御巡幸記念の碑と思われまふ。

しかし、現在はこの記念碑は小学校敷地内には見当たりません。察するに、奉安殿解体の折に撤去されたのかもしれない。占領政策への過剰な反応の一つであったかもしれない。陸軍大演習に関する記念碑は全国的に数多く残されていますが、はたしてこの碑はどこへ行つてしまったのでしょうか。

二宮金次郎像
（『五台小学校百年誌』より）

故勲八等根本信之介君之碑

碑文

故 村長勲八等根本信之介君 墓
暨根本婦人笹島氏喜代子 墓



根本信之介夫妻の墓

碑陰文

君、諱ハ俊信、信之介ト称ス、父ハ源介、安政四年四月四日茨城県那珂郡五臺村東木倉ニ生ル、同郡國田村笹島仁衛門二女喜代子ヲ娶リテ二男ヲ生ム、長ヲ秀之介トイヒ、家を継グ、次男ハ早死ス、君、資性温厚篤實、農ヲ業トシ勤儉力行、加フルニ慈愛ノ心ニ富ミ、常ニ専ラ心ヲ教育及村治ノ事ニ致ス、其ノ功績甚シ、明治二十二年町村制實施ノ時ニ當リ、君、選ハレテ五臺村村會議員ト為リ、又東木倉ノ区長ニ推サル、適五臺尋常小学校ノ位置東木倉ニ指定セラルルヤ、初メ民家ヲ以テ其ノ校舍ニ充ツ、君、深ク其不完全ヲ憂ヒ、一日モ早ク之ヲ改メン事ヲ期シ、自ラ奮ツテ自己所有ノ地ヲ寄附シ、熱誠能ク区民ヲ説キ、遂ニ一校舎ヲ新築スル事ヲ得タリ、区民今ニ君ヲ徳トス、二十六年東木倉地主總代ト為リ、三十四年五臺村助役ニ選バル、日露戦争起ルニ際シ、率先シテ軍資

金ヲ献ジ、村長ヲ補佐シテ励精愈々其ノ職ニ尽シ、功績尤モ顕ハレ、三十八年推レテ五臺村村長トナリ、職ニアル事三有余年、四十五年九月四日、病ヲ得テ死ス、時ニ行年五十三歳、是ヨリ先三十九年四月、三十七、八年戦役中ノ功ヲ以テ勲八等ニ叙セラレ、白色桐葉章ヲ賜ハル
大正元年十二月
衆議院議員勲四等 根本正撰文
北条時雨書 男秀之介建

根本正に関する史料はかなり調査が進んでいますが、このように碑陰文を撰文していることもかなりあると思われます。今回、根本正の墓所脇にあったことを見のがしていたのは資料館としては辻褄でした。今後、市民の皆様のご協力をいただきながら地道に調査を進めて参りたいところです。

水郡線の水戸一高下トンネルを架橋に

昭和4年（1929年）11月17日、昭和天皇の太田における陸軍特別演習御親閲行幸に際し、お召し列車が、那珂トンネルを通るには狭いという事情のために、土橋やトンネルを廃して切通しとし、橋付近の線路の側幅の拡張工事、土橋の改良工事すなわち代替の架橋について国鉄側は茨城県に了承を求めました。それ

に対して県は、史蹟保存と生徒の通学に支障のないことなどを条件にこれを認めました。また、県有地と国有鉄道の境界は、橋の橋脚部分をもって境界と定めました。これをもって、新設される橋は国有鉄道の所有物となりました。

工事は昭和4年（1929年）6月から開始されました。架橋の様子は、写真に見られるように、手前が仮設の木造栈橋で、その向こうがトンネルが通じている土橋、その上部は既に崩れつつあり、その上に工事人夫達が乗っています。その土橋が崩れて、低くなった上に架けられつつあるのがトラス橋と見えます。この後、土橋・トンネルともに取り払われたでしょう。

橋は、この年の9月に完成し、水戸中学校職員で漢学に造詣の深かった天海謙教諭によって「本城橋」と命名されました。



水戸一高下の架橋
（『水戸一高百年史』より）

常陸太田市立太田小学校内の記念碑

なお、太田小学校校庭の西隅に当時の浜口雄幸首相の揮毫による「聖上御駐蹕處」と刻した記念碑が

建っています。裏面には

昭和四年陸軍特別大演習ニ際シ、十一月十七日 天皇陛下本町ニ行幸アラセラレ、駐蹕（ちゆうつ）五時間御講評ヲ終ヘサセラレ、還幸シ給フ、乃チ其の光榮ヲ録シテ、之ヲ永遠ニ傳フ
昭和五年十一月十七日

茨城県知事正五位勲四等牛島省三謹書
とあって、行幸の光榮を永遠に伝えようと、ちょうど1年後に建立されたことがわかります。

【注】
10 駐蹕
天子（天皇）の行幸のこと



「聖上御駐蹕處」碑

最後にお願

五台小学校に建てられた「巡幸永念之碑」の行方、あるいは撤去された事情などご存じのかたは、情報を歴史民俗資料館までお知らせください。

い
せ
問
合
せ

歴史民俗資料館
☎297・0080